

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あきおさんとたかこさんはいとこ同士です。ある日、あきおさんがたかこさんの家に遊びにきました。

たかこさんには先日生まれたばかりの妹がいます。

〔あきお〕 こんにちは。赤ちゃんはどうしているの？

〔たかこ〕 いらっしやい。子守歌を歌ってやつていたら、ついさつき眠ったところなの。

〔あきお〕 やあ、かわいい顔をして眠っているね。子守歌を聞いて、幸せな気分になったんだろうなあ。

〔たかこ〕 歌っているわたしも、何だか懐かしいような気がしていたの。わたしも、きつと何度も歌ってもらっていたのね。

〔あきお〕 生まれたときからぼくたちは歌といっしょに過ごしているんだね。

〔たかこ〕 そうね。わたしたちもよく歌ったわよね。

〔あきお〕 歌を歌って楽しくなったり、じーんとしたり……。歌って、ぼくたちの気持ちと結びついているよね。運動会の応援歌は、チーム全員で歌って、なんだか勇気がわいてきたよ。

〔たかこ〕 わたしもそうだったわ。それに、歌を歌うと、いろいろなことが頭の中に浮かんでこない？ わたし「椰子の実」っていう歌を習ったんだけど、この歌はなんともいえない、せつない気持ちになるのよ。

〔あきお〕 ぼくも「椰子の実」という歌は知っているよ。たしか島崎藤村の詩に曲をつけたんだよね。「椰子の実」とはココナツのこと

とだ。

〔たかこ〕 そう。たとえば、歌の出だしは「名も知らぬ遠き島より 流れ寄る椰子の実ひとつ」というんだけど、「名も知らぬ遠き島」って、名前も知らないくらいものすごく遠い島ということじゃないかしら。とすると、そこからここまで、とても長い旅をしてきた、つまり、大変な目にも何度もあったということだと思うの。

〔あきお〕 しかも「椰子の実ひとつ」ということは、椰子の実はたった一人ぼっちで、どんなにかつらかっただろうね。

〔たかこ〕 そうそう。そして、「流れ寄る」とあるから、運命の波に流されて、自分ではどうにもならなかった！ ああ、なんだかドラマのように世界が広がるわ。

〔あきお〕 歌っていいものだね。世界中にはたくさん歌があるのだから、ぼく、もっともつと勉強して、歌の世界を楽しみたいよ。

〔たかこ〕 わたしも同感だわ。すてきな歌があつたらぜひ教えてね。

問1 「椰子の実」の歌詞の「名も知らぬ 遠き島より 流れ寄る 椰子の実ひとつ」の部分から、たかこさんやあきおさんは問題文の傍線部のようにさまざまな情景を読み取っています。あなたは次の傍線の部分（「故郷の岸をはなれて 汝はそも 波に幾月」）のどの言葉から、どのようなことを読み取りますか。二通り答えなさい。

歌詞

意味

名も知らぬ 遠き島より
流れ寄る 椰子の実ひとつ

名前も知らない 遠い島から
流れ着いた 椰子の実がひとつ

故郷^{ふるさと}の岸を はなれて
汝^{なれ}はそも 波に幾月^{いくつき}

故郷の岸を はなれて
おまえはいつたい 波にどれだけ
漂^{たぐよ}ったのだ

(島崎藤村作詞 大中寅二作曲)

問2

あなたはこれまで音楽とどのようににかかわってきましたか。日常生活の中で、あなたと音楽とのかかわりがあつたと思われる場面を二つ思い出し、それぞれの場面からどのようなことを感じたり影響^{えいきやう}を受けたりしたのかということがわかるように二百四十文字以上三百字以内で説明しなさい。(音楽の授業中のできごとを除きます。)

〈書き方〉

- 題名、名前は書かずに、一行目から書きなさい。
- 原稿用紙の正しい使い方にしなさい。